

第 48 回日本集中治療医学会学術集会

2021 年 2 月 12 日～2 月 14 日 WEB 開催

■ パネルディスカッション

『心不全パンデミック時代の集中治療 心不全パンデミックに対峙するには』

司会：遠藤 智之（東北医科薬科大学病院 救急科）

司会：佐藤 直樹（かわぐち心臓呼吸器病院 循環器内科）

演者 1：

『循環・水分管理』

佐藤 直樹（かわぐち心臓呼吸器病院 循環器内科）

高齢者の増加に伴い急性心不全あるいは ICU における循環・うっ血管理を適切に行う必要性が高まっている。入院期間が長くなればなるほどフレイルが進行し、予後が不良になるため、早期から循環・水分管理を適切に行うことが求められる。最近、心不全の薬物療法がパラダイムシフトする方向にあり、それらの治療も可能な限り入院中早期から導入するアプローチが注目を集めている。今後、かわりつつある循環・水分管理について update について概説する。

演者 2 :

『肺動脈カテーテルで補助循環管理を「見える化」する！』

川上 将司（飯塚病院 循環器内科）

心不全パンデミック時代となり、もはや心不全診療は循環器内科医のみが行うものではなくなった。集中治療室では急性心不全・ポンプ不全患者はもちろんのこと、慢性心不全患者が他の重篤な疾患や病態を発症して収容されることも多く、これまで以上に集中治療医と循環器内科医の連携も重要となってくる。集中治療室のスタッフにとって、血行動態の安定化は最も重要なミッションの一つであり、様々なモニタリングを駆使して適切な治療を行う必要がある。肺動脈カテーテルは ESCAPE 試験に代表されるように、重症心不全患者の管理に有効であるという明確なエビデンスを残すことはできていないが、現在も集中治療室でたくさんの重要な情報を医療者に提供してくれる重要なモニタリングツールであることには変わりはない。肺動脈カテーテルを正しく使うことができるならば、客観的に、かつ正確な血行動態把握が可能となり、チーム内での治療方針が明確となる。これは重症心不全患者に補助循環装置が使用されている状況でも同様である。ここでは、集中治療室で補助循環装置を装着して循環管理をしている際の肺動脈カテーテルの使い方をまとめる。心不全パンデミック時代には、重症心不全の循環管理を肺動脈カテーテルによって「見える化」し、集中治療室の全てのスタッフが質の高い医療を提供できるようにしていく必要がある。IABP、VA-ECMO、Impella がどのように血行動態指標を変えていくか、医療者側がそのことを理解することによって、より円滑で確実な循環管理ができることを示していきたい。

演者 3 :

『心不全パンデミック時代の集中治療「心不全パンデミックに対峙するには」』

伊藤 智範（岩手医科大学附属病院 内科学講座 循環器内科分野/医学教育学講座 地域医療学分野）

いま、心不全パンデミックが到来しつつある。いまや、心不全は心房細動に次いで、common disease になってきた。その診療を担うのは幅広い領域を担当する集中治療医にとっても例外ではない。その中で、心不全の原因疾患の一つである虚血性心疾患は、ある一定の専門性を有する領域である。その診断には、古典的であるが現在でもゴールデンスタンドである冠動脈造影を外すことはできない。心不全診療の現場では、高齢者や腎機能低下のケースも少なくなく、心臓カテーテル検査などの侵襲的検査の適応について、悩むことも少なくない。

しかしながら、昨今冠動脈 CT が導入され、冠動脈造影を行う循環器専門医でなくても、冠動脈病変の有無を検索することが可能になった。侵襲的治療を実施する前までの冠動脈疾患の診断を確定させることができれば、集中治療医にとっても、治療の考え方をショートカットすることが可能になり、侵襲的治療を担当するハートチームへの早期アクセスにもつなげられるようになる。

今回は、集中治療医にとって冠動脈疾患・心筋虚血の精査を、心不全診療を行いながらどう考え、どう行うべきかを、皆さんとともに考えたい。

演者 4 :

『心不全パンデミック時代の集中治療「心不全パンデミックに対峙するには」』

柴田 龍宏 (久留米大学心臓・血管内科)

超高齢化社会の進展や治療選択の複雑化など、心不全パンデミック時代の循環器集中治療において我々は必然的に複雑な終末期の問題に直面するようになった。そのような中、生命維持治療の是非や植込み型除細動器の停止などに関する意思決定支援や治療抵抗性の身体症状の緩和、メンタルケアなどの緩和ケア的アプローチの重要性が高まっている。しかし、臨床の現場でそれをどのように実践していくのか、まだその方向性が定まっていないのが現状である。本セッションではこれらの問題とその解決の糸口について整理していきたい。